

社乃旅

秩父神社社報

柞乃杜 (ははそのもり)

第 4 号

平成 3 年 7 月 23 日



秩父の宮造り

故郷の夏

平成三年の夏、秩父の山河は自然の生命に充ちています

郡市民十万の故郷は、いま青葉若葉の榮える大地です

知知夫彦命がこの大地を拓き、神祖八意思兼神を祀られた

この柞の杜も、秩父総鎮守にふさわしく社頭の整備にかかります

秩父の将来は、この恵まれた自然を豊かな風土に保つことになります

首都圏の大都会が求めて得られぬ家郷文化を育てることにあるのです

家郷の安心立命に不可欠な魅力あるマチ造りには
伝統の祭りと由緒ある氏神の社が、その核とならねばならぬ——

秩父神社は、そうした故郷の理念に沿つて

家郷文化のメツカにふさわしい宮造りを目指しているのです

群れ立ちて 青葉の競ふ
山里に 夏は来にけり

朝まだき 霧立つ野辺に
豊かなる 水音高し

故郷に 昔をしのび

いま我の 暮らしを思ふ

顧みて 踏み來し径は
過たず 辿れる道か

わけ入りて 夜露に濡れし
我が身にも 朝日は射すか
はやばやと 明けゆく空に
祈りこめ 歩み行くのみ

解説 秩父神社(四)

福宜 浅見 武史

◆ 鎌倉武士の信仰

建久三年（一一九二年）源頼朝は鎌倉に幕府を開き、武家政権が発足した。時の為政者の施政方針により、神社の尊嚴維持は榮枯盛衰の長い歴史を重ねてきた。奈良・平安時代、中央集権による国家行政充実期には、各社に手厚い保護がなされ、厳然とした神社祭祀が営まれたが、律令体制の崩壊と共に、神社の維持管理も難しいものとなつた。

鎌倉幕府の基本方針は『御成敗式目』

と呼ばれ、五十一条から成り、その第一条が敬神を規定すると共に、神社に関する定である。

可修理神社專祭祀事

右神者依人之敬増威、人者依神之德添運。然則恒例之祭祀不致陵夷、如在之禮奠、

莫令怠慢。因茲於關東御分國々并庄園者、地頭神主等各存其趣可致精誠也。兼又至

有封社者任代々荷、小破之時、且加修理、若及大破令言上子細者。隨其左右可有其

沙汰矣。

要旨は「神社を修理し、祭祀を専らにすべき事。神は人々の篤い崇敬により神自らの、御力を増し、人々はその神のご

神徳を戴いて幸福を授かる。恒例の祭祀は弥々盛んにし、神まつり、先祖まつりには慎み敬いて、神前に供物を捧げて、聊

も忘る事なく、更には神社の小修繕は速やかに致し、大破の折には幕府に言上して、その指示を受けるように。」と定めている。戦に明け暮れた鎌倉武士にとつて、神明加護の熱い願いは上下の者に拘わらず、等しく抱く心根であった。

このよき時代背景の中、当社を崇敬する武士団に秩父氏の存在があつた。秩父氏は恒武平氏良文を始祖とし、秩父郡中村郷に本拠地を置いたと伝えられ、嫡流は秩父権守重綱以来、代々幕府の重職たる武藏国総檢校職を勤め、更に庶流には豊島氏、葛西氏、川崎氏、洪谷氏、河越氏、江戸氏、

社伝によれば、当社の社殿は一度焼失している。最初は嘉禎元年（一二三五年）の落雷により。二度目は永祿十二年（一五六九年）甲斐武田勢の秩父乱入の時、いわゆる「信玄焼き」によって。昭和四十一年九月、台風の為、境内の老大木が倒れかかって社殿が破壊された。旧社殿の跡地を調査検分の結果、二層にわたる焦土層が確認された。『妙見宮縁起』によれば、（略）四条天皇の嘉禎元年の秋九月、火雷の災いで瑞檻も煙炎と成り果ぬ。め

◆ 社殿造営

幕府の有力御家人である秩父平氏一族の信仰の中心に当社は位置し、多くの崇敬と支持を得ていたのである。それ故、良文は当社に妙見信仰を勧請した人物であることは前号に記した。

幕府も妙見社祭礼に際し、神馬を奉納し、『如在之禮奠、莫令怠慢。』の範を示したのが、神馬奉納の始まりである。



ぐる車の数盡て禦かたなき災は神とて除んかたもなし——（略）。

当時の造営事業に関する幕府との交渉経過は、所蔵の「造営文書」によりその一部を知りうるが、相当の困難と長い歳月を費し、社殿焼失後七十九年の後、正和三年（一一三四年）にやっと遷宮祭が斎行された。秩父氏一族の中心たる妙見社の造営がかくも難行いたしたのは、開幕当初、関東一帯に活躍していた秩父氏一族は、この頃になると戦功の恩賞として奥羽、西国の新補地頭に補任されたのを機に本拠地を離れ、次第に新任地へと移住し、本拠地たる秩父周辺には有力者が少なく、その上に文永・弘安（一二七四年・八一年）両役により、幕府權威低下の要因も重なつた為と思われる。このよき状況下にあって、播磨國六栗郡三方西莊にあつた、丹党中央村氏の庶流である大河原氏は、備前長船の名工景光、景政に令じて太刀（現宮内庁御物）、短刀（現国宝）を当社に奉納している。唯残念なことに、如何なる経過を以て当社を離れたかは祥らかではないが、神縁深いこの御品を神前近く奉安したいと、ひたすら願うものである。



昭和の継承と平成への発展と

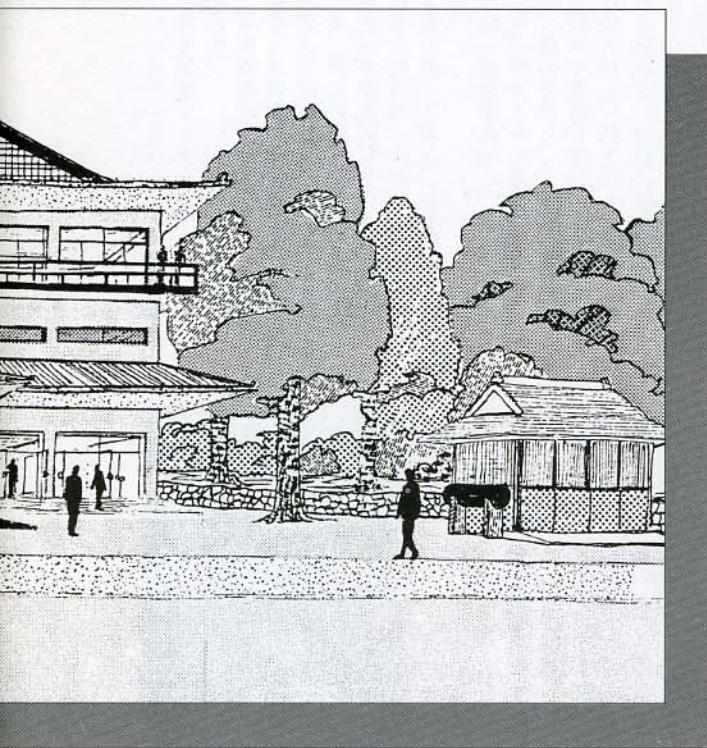
平成御大典奉祝事業について

宮司 蘭 田 稔

時の経つのはまことにめまぐるしく、御大典が古式ゆかしく斎行されてから早くも半歳余りを過ごしました。当時、一部の心ない者たちの妨害に立ち向かいながらも、本来の意義に沿う祭儀や祝典の執行がとどこおりなく済んで、国民各界の奉祝行事が盛大に行われたことは、まことにめでたいことあります。当社といたしましても、多勢のご参列各位をお迎えし、全国八万有余の神宮、神社とともに慎んで大嘗祭当日祭を斎行し、国民挙げての奉祝と共に致した次第であります。

なお、全國の神社界におきましても、この平成御大典をお祝い申し上げて数々の記念行事並びに記念事業を実行いたしておりますが、当社もまた、かねて「柞の杜」第一号でご案内申し上げましたように、記念の奉祝事業を計画し、当社氏子大総代の各位と共にその実現をめざして努力してまいりました。かつて秩父の先人たちが、昭和の御大典を奉祝して昭和三年に当社の面目を一新する大事業を完成された功績に思いをいたし、今回の奉祝事業もこの平成三年を以て発足させることにいたした次第であります。

さて、この事業は、正式の名称を『平成御大典奉祝念 秩父神社境内改修整備事業』とし、五ヶ年計画としてその内容を「昭和の継承と平成への発展」にふさわしく、次の二つの主要事業を計画いたしております。



- 一 御神門、瑞垣、神楽殿および神札授与所の全面改修
- 二 旧社務所・參集所の撤去に伴う崇敬会館の新築とその周辺整備

一 昭和の継承として

第一の改修事業の対象となる諸施設は、今からほぼ六十三年前の昭和三年に昭和天皇御大典を記念して当社が国幣小社に昇格した際、当時の秩父セメント株式会社をはじめ地元企業、団体、氏子崇敬者の奉賛によつて築造されたもので、以来その典雅なたずまいが当社の秩父總鎮守たる御社格にふさわしいものであります。御社殿は、去る昭和四十一年九月の台風禍の後に皆さま縦力を挙げてのご尽力を賜り、大改修がほどこされて天正二十年以来の優美な姿になりました。御社殿は、六十年余りを過ぎた現在、降灰や排煙などの都市公害も加わって彫り物や漆塗りの造作が痛んだ上に、特に御神門には心ない人たちが凧構わずに張り付ける千社札のために、往時の美観がすっかり損なわれてしましました。

そこで平成御大典に際し、かつて縁りの昭和御大典から六十年後という節目を尊重して、これら関連施設の本格的な改修を平成三年度から実施することにいたし、すでに去る六月から御神門の改修工事には、上境内の神札授与所の増改築とともに着手しております。

二 平成への発展として

つぎに第二の記念事業は、当社が今後積極的にすすめるべき秩父の魅力あるマチ造りの拠点となる新しい崇敬会館の建設とその周辺整備であります。

この新館は、いま境内前庭にある旧社務所とこれに隣接する旧參集所とを撤去し、その跡地を活用した地上三階の多目的の会館を中心とするものであります。その大きな特色は、社務所に接する一階の大部分を広いロビ

一ホールにして、東面する道路に広い入り口を設け、秩父まつり会館の側から直接下の境内に通り抜けることができ、しかも参拝客の休憩や地元氏子の皆さんとの寄り合いにも自由に活用できる出会いの広場とするところになります。そして二階と三階には、二つの多目的ホールのほか、崇敬講や氏子青年会その他関連諸団体のために集会研修施設、宿泊室、配膳室および神楽や屋台囃子の練習もできる防音の多目的スタジオなどを設けることになります。なお現在の旧社務所の跡地を利用しては、道路に面して駐車スペースを確保しながら、その上部に木造和風の斎館を新築し、現在の参集殿と新館とを連接しつつ、おもに職員の禊斎や神事奉仕の施設とすることにいたします。

三 事業協賛へのお願い

当社の境内諸施設の現状は、去る四十七年に建設した現在の参集殿を活用することで、何とか旧来通りの祭祀、社務だけはしのいでいる状態ではあります。しかしながら、今後の観光保養地たる秩父の魅力ある家郷文化にふさわしいマチ造りの拠点となるには、こうした「秩父總社」本来の施設、すなわち参拝客や氏子崇敬者が心豊かに楽しむことができる出会いや、憩いの場としての諸施設が絶対的に不足しています。この現状をすこしでも改善するとともに、当社は、唯、お祭りの時だけに限らず、普段の時にも真にマチ造りの拠点として、いわば世間的利害を越えた住民同士の心のコミュニケーション・センターとなることを目指す——このことが、この事業の目的なのであります。

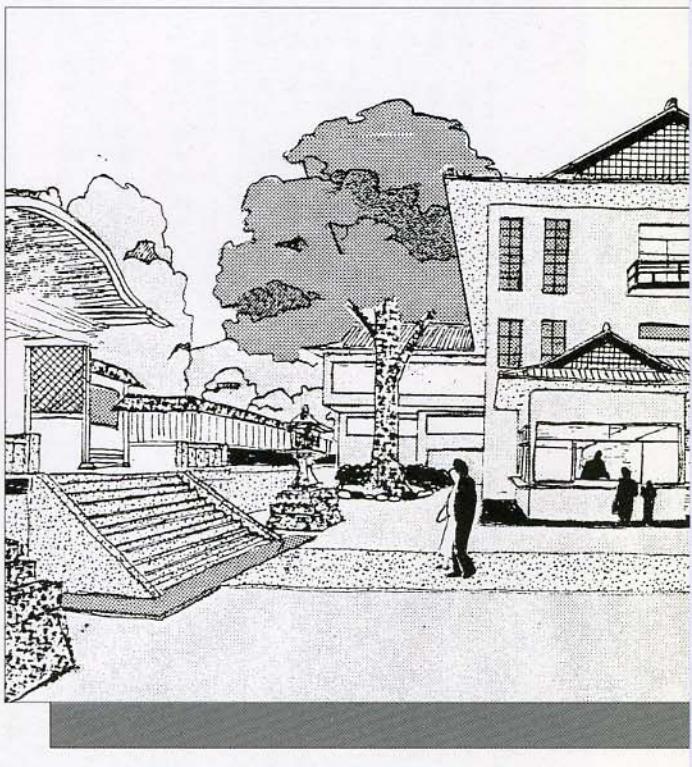
以上、昨秋の平成御大典の盛儀が成りましたことを心からお祝いすると共に、かかる奉祝の総意を是非とも意義ある記念とすべく、郷土の総鎮守たる秩父神社の歴史に残る、この奉賛事業の実現に当社を挙げて努力いたしたいと存じます。近く、本事業奉賛のご協力を得たく、なにとぞご理解とご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

表紙説明

当社の夏祭（川瀬祭）は、古くより疫病・害虫等の災いを、荒川の清流に流す夏越の祓の祭として伝えられてきた。全国各地に分布する夏祭の御祭神は、京都八坂神社の祇園祭を始め、多く須佐之男命であるようだ。「テンノウサマ」と呼ばれるのも神仏習合時代に、牛頭天王と須佐之男命が一体と考えられていたことによる。川瀬祭も当社境内社の日之御崎宮（御祭神：須佐之男命）の例大祭を兼ねて行われる。

冬祭と比較して、夏はその担い手が子供を中心とした若者であり、表紙の写真も力いっぱい拍子を執っている子供の姿である。夏から秋にかけて行われる様々な祭は、日本の伝統文化として、お盆行事と共に各地で伝えられてきた。

日々その姿を変えつつある秩父の中において、守つていかなければ失われてしまうもの、また多いのではなかろうか。



山 沢 の 民 わが性や山沢びとの血をうけて

柿 塚 欣 一 郎

山恋ふらしも秩父びとわれ

秩父は美しい山々に囲まれ、清らかな川の流れに恵まれていますが、この地に生まれ育ち、長い年月を過して来ますと、秩父の人間ということを感じるようになり、良きにつけ、悪しきにつけ、秩父人を強く意識しております。秩父に対する思いは、倭建命が詠まれたという「國しのひ歌」の表現を借りるならば、

秩父は
國のまほろば
たたなづく
青垣
山隠れる
秩父しうるはし
と
賛えたい気持ですが、作者は山沢の民ですから、それらしい歌になりました。四百年ほど昔の祖先が、秩父の峰沢に来て暮し始め、何代かの後、里に降りて生活するようになり、現在に至りました。時々、山に登りたくなつて血が騒ぐのは、山沢の民の末裔だからではないかと思います。祖先たちは、貧しいながらも、神仏を敬い、自然を尊び、人に対してもやかな心を持って暮していたのだ

飛驒の里高山と古川祭の旅

秩父神社氏子青年会

会員 浜 中 啓 一

四月十八日～二十日、秩父神社氏子青年会主催の視察旅行に参加させて戴いた。十九日に気多若宮神社へ正式参拝した森の中には残雪があり、奥飛驒は春とはいえ、身が引き締まる思いがした。

我々一行四十三名は、秩父神社氏子青年会の紋入りの半纏を着用しての参加で、地元の方も「昨年秩父へ行つたよ」と軽い声をかけてくれ、とても嬉しく思った。



古川祭は、高山祭と並び称され、立派な山車・からくり舞台が、どれもこれも豪華で素晴らしく、御神幸での獅子舞も水の豊かな古川の町は、長い歴史と文化に培われて、今も厳然とそれを守り、その優雅な町並を保つている。その祭は、脈々と流れる土地の歴史・風土を祀り、古い町・古い人々、またそれに拘わる人々が、今も尚、神と共に現代に蘇っている。

山車に施された、様々な極彩色の彫刻類もたいへん素晴らしいもので、匠の里を語るにふさわしいものであつた。

この研修旅行を顧みて、この秩父の町並、またその祭を思い返した時に、古川に見習うべきところが多くあるのではないかと今、謙虚に考えている。

(山中雅文 副会長)

参加者の声

◆昼夜通して祭行事が見学できて、たいへん勉強になりました。次回の旅行を楽しみにしています。
(小針アサノ 会員)

◆秩父の祭が農民文化を土壤にして成立つてゐるのに対し、古川の祭は京風の雅やかな文化の流れを汲むものであると感じた。しかし、両者とも中心になつてそれを支えてきたのは、商家を中心とした大衆の力があつてこそだと思う。秩父においても皆が力を一にして祭を守つていかなくてはならないと強く感じた。

(塚越康一 会員)

◆古川の町並は変に観光地化されず、古川に見習うべきところが多くありました。祭も昔ながらの形をよく留めています。素晴らしいと思います。

(青木尚子 会員)

ユーモラスでおもしろかった。十九日は試楽祭といい、夜更けの十時、ドーン・ドーン起こし太鼓の連打が響く。「若松様」の大合唱と共に、裸姿の「古川やんちや」が激突する。まさに祭のクライマックスだ。

翌日二十日は本樂祭。高山に宿泊したので高山の古い家並を臨んだ。昨夜の「動」に対し、絢爛豪華な「静」である。この調和した古川祭を旅して、何か秩父の祭が待ち遠しく思えた。

また次の祭の旅を楽しみに。



新人紹介

秩父神社巫女見習

関 口 裕 美

秩父に生まれ育った私は、幼いころから色々な行事などで秩父神社に参拝に来ることが数多くありました。ですから巫さんが奉仕している姿を見かける機会もあり、そういう姿を見て、こんな職業もあるのかと幼心に思つたりもしました。この職業に就きたいと思い始めたのは、高校に入学してからのことです。祖先から受け継がれてきた様々な神話や、秩父神祭を守ってきた伝統ある私の大好きな秩父を、少しでも多くの人達に知つてもらえるように努力していくのです。また、各地域から参拝においでになる人達の、ほんの少しでもお役に立てる事ができたらと思います。これからも先輩方のご指導のもと、初心を忘れずに頑張つていきたいと思います。



◆守屋 通夫 (21)
昭和45年4月21日生
秩父市別所出身
当社神楽奉仕者の家に生まれ、幼少より神楽に親しむ。國學院大學別科神道學二類卒業後当社に奉職。

◆有本 智美 (18)
秩父市宮側町出身
宮側町夏祭行事に中学校の時から参加し、郷土会々員として屋台囃子保存に努力している。秩父高校卒業後、当社に奉職。趣味として琴を嗜む。

◆関口 裕美 (18)
秩父市大野原出身
秩父東高校在学中より巫女職を憧れの仕事として、卒業後直ちに当社に奉職。

梶だより



◆ 当社奉祝事業が始まる

◆ 祭礼博物館構想

◆ 秩父神社妙見講

◆ 名誉宮司の本所表彰について
当社の蘭田武男
名譽宮司は、この
五月二十三日付を
以て、神社本所より
長老の敬称を贈
られた。



平成の御大典を記念して、当社の奉祝事業が始まつた。本年秋までに本殿脇の神社授与所が増築され、併せて御神門の塗り替え改修工事が始まつてゐる。今後五年間に亘る工事により、下境内には地上三階建の崇敬会館が建築される予定である。

◆ 大黒舞衣装を奉納戴く

に神社界の最高身分である淨階特級を有しているが、その長年に亘る功績が高く評価され、今回の表彰が決定した。長老の身分を有する神職は、現在、全國にも僅か十五名で、(出雲大社宮司)千家尊祇様、(富良野神社宮司)西川仁之進様と並ぶ表彰となつた。尚、同日に蘭田稔宮司は國學院大学教授に任命された。この四月一日付を以て、当社蘭田稔宮司は國學院大学教授を辞し、京都大学教授に就任した。

去る五月十二日、近戸妙見講のご参拝の折、講元新井金三郎氏より大黒舞用の衣装一式をご奉納戴いた。新井氏は織維業を営む傍ら、現在まで近戸町会長を勤められ、また、当社地区総代を始め、地元三嶋神社においても、長くご尽力を戴いている。



今回、平成の御大典を記念してのご奉納といふことで、職員一同敬服の極みに思ひ、長く後世に伝えていきたいと考えている。

◆ 氏子青年会の表彰について
昨年末の御大典をめぐる極左ゲリラの連続放火事件多発の中、当社氏子青年会は夜間特別警備を実施し、ゲリラ活動を未然に防いだことが高く評価され、一月二十一日秩父警察署長より表彰を受けた。

当日、今井会長及び浅賀・山中両副会長に、栗原秩父警察署長(当時)より表彰状が贈呈された。氏子青年会発足一年ととなるであろう。

◆ 宮司、京都大学教授就任について
新設の大学院「人間環境学研究科」において日本文化論、宗教学部において宗教学を担当する。広く今日の環境問題を始め、神道を含む日本文化について、今后の日本を背負う若者達の育成指導にあたることとなつた。



この四月一日付を以て、当社蘭田稔宮司は國學院大学教授を辞し、京都大学教授に就任した。

◆ 氏子青年会の表彰について
毎年行われている例大祭十二月二日の新穀奉獻祭には、神饌米のご奉納を行っている。



◆ 辞職
名譽宮司 蘭田武男、長老の敬称を贈る。
宮司 蘭田稔、功労賞を授与す。
実習生 岩田勝宏、秩父神社権頭宣を命ず。
巫女見習 小池寛子、巫女を命ず。
守屋通夫、実習生を命ず。
有本智美、巫女見習を命ず。
関口裕美、巫女見習を命ず。
(4月1日付)
(4月30日付)

当社宮司の提唱する「秩父祭礼博物館」の構想に賛同され、「万葉の会」(会長柿堺欣一郎氏)よりその基金として金三十万円をご奉納戴いた。

当社では、秩父に伝わる伝統儀礼のみならず、全国に分布する日本の祭礼文化

を集大成し、秩父を訪れる観光客に日本

の伝統文化を再発見することができる、

全国唯一の博物館を実現すべく、近く検

討委員会を発足する。

誌上を借りて、同会に厚く御礼申し上

げると共に、益々のご発展を心よりお祈

り申し上げる。

五月一日 幸手妙見講

東大寺宮神社宮司外、四十三名参拝

五月十二日 宮ノ側妙見講

高山公夫講元外、九十八名参拝

四月五日 白岡町篠津妙見講

齊藤悦男講元外、二十一名参拝

四月十七日 皆野妙見講

閑口ミツ代講元外、四百二十一名参拝

五月一日 上萬田妙見講

宮前信雄講元外、四十一名参拝

五月一日 幸手妙見講

岩川福一講元外、四百九十三名参拝

五月十二日 中宮地妙見講

五月十二日 近戸妙見講

新井金三郎講元外、百四十四名参拝

五月二十四日 原谷妙見講

六月一日 中宮地妙見講

六月十六日 清講元外、二百二十九名参拝

六月十五日 本町妙見講

六月十六日 大島孝子講元外、八十四名参拝

六月二十五日 下宮地妙見講

六月二十五日 根岸恒太郎講元外、七十九名参拝

六月二十七日 日野田妙見講

新井六三郎講元外、九十九名参拝

六月二十七日 日野田妙見講

新井六

大総代研修旅行について

権禰宜 枝窪邦茂

去る五月十一・十二両日、神奈川県鎌倉市鶴ヶ岡八幡宮、静岡県三島市に鎮座する三島大社、並びに日高町の高麗神社へと、当社大総代御夫妻、宮司・禱官夫妻、また建築設計師の根岸俊雄氏の七名により研修視察旅行が行われました。今回の旅行は、当社の崇敬会館を建設するにあたり、他社のそれを参考にする事を中心としたものです。



古くより篤い崇敬を集め神社です。三島大社の社務所は、平成の御大典を記念し、総工費十五億円の巨費を投じて建築された、近代的な設備と機能を有する地上二階、地下一階の社務所兼參集所です。また高麗神社にも、平成元年に御社殿に沿つて新築された社務所兼用の多目的会館があります。高麗澄雄宮司様の懇切なご案内でも良くな工夫を凝らした設計を拝見し、一同大いに感銘を受けた次第です。

三社共に、神社の氏子・崇敬者、また参拝者との関係や特徴を考えた上に建築された参集所でした。当社の御大典奉祝事業の一つであり、今後五ヶ年に亘つて建設予定の崇敬会館も、こうした他社のそれを参考にさせて戴きながら、より良いものを作つていきたいと考えております。氏子・崇敬者の皆様方には、どうぞご理解戴きまして、何卒ご協力の程を宜しくお願ひ致します。

| | |
|----------------|-----------------|
| 一月二十七日 | 元旦祭参列（十三名） |
| 一月三日 | 秩父警察署長より表彰を受ける。 |
| 一月十一日 | 節分祭奉仕（四名） |
| 二月二十二日（二十三日） | 建国祭参列（二十二名） |
| 立太子礼夜間警備（三十三名） | |

十二月～六月の主な活動報告

◆ 氏子青年會活動

十二月～六月の主な活動報告

◆ 氏子青年会々員募集
当社氏子青年会では、引き続き会員を募集しております。歴史、祭い、いずれかの部会に所属して戴き、各種勉強会及びレクリエーションを通じて、会員相互の親睦を深めております。秩父市内に在住、若しくは主な勤務先を有する五十歳以下の青年男女の方々、当社社務所までお越し下さい。

| | |
|------------------|------------------|
| 五月二十二日～二十三日 | 建国祭参列（二十二名） |
| 立太子札夜間警備（三十三名） | 三月二十四日 |
| 第二回レクレーション部会活動 | 四月十八日～二十日 |
| 三峯神社・同奥社参拝（四十一名） | 岐阜県飛驒『古川まつり』研修旅行 |
| 五月十九日～二十日 | （四十三名） |
| 新潟県大湯温泉役員旅行（十三名） | 五月二十六日 |
| 総会（七十五名） | |

■ 蝉しぐれが社叢にかまびすしく聞こえ
る毎日ですが、皆様にはお元気でお過し
のこととお慶び申し上げます。ここに社
報「柞乃杜」第四号をお届け致します
でご一読下さい。

■ 去る五月二十五日、新井君美権禰宜は
蘭田稔宮夫妻の媒妁により、大前に結
婚の報告を致しました。新婦久美さんと
の新生活も充実した日々とか、今後一層
の活躍が期待されるところです。

■ 当社の御大典奉祝記念事業につきまし
ては、新構想のもと本文でもご紹介致
ました。敬愛会館建設を始め、境内整備
が予定されております。現在、祈願者並
びに参拝の方々の待合所の増築、神札
授与所の改築工事が鋭意進められ、今秋
早々には完成の見込みです。これに引き
続き、六十三年ほど前に昭和天皇の御大
典記念として建てられた御神門の改修工
事も予定されており、ご参拝の皆様方に
は何かご不便をおかけ致しますこと、
紙面にてお詫び致します。

大きな事業を控え、職員一同氣持を引
き締め神明奉仕に励んでまいりたいと存
じます。皆様のご理解とご協力を心より
お願い致します。

編集後記

平成三年(一九九一)七月二十三日
編集発行 秩父神社社務所
〒366-8366 埼玉県秩父市番場町一一
TEL(049)321-0266
FAX(049)241-5596
有隣会社 拡文社 印刷所
〒366-8366 秩父市東町二十七一八